

環境調査結果のお知らせ

令和8年6月4日9時から野見湾の環境調査を実施しました。

概況

検鏡の結果、魚類に対して有害とされるケラチウム属が最高で4 cells/mL確認されました。また、魚類に対しては無害とされるアカシオ・サンガイネアが最高で1 cell/mL確認されました。

海や養殖魚の状態に不安や変化を感じた時は、水産試験場か中央漁業指導所まで連絡してください。

調査点 (透明度) 【調査時刻】	海洋環境				プランクトン		
	深度	水温	塩分	溶存酸素	ケラチウム 属	アカシオ・ サンガイネア	珪藻
	(m)	(°C)		(mg/L)			
A ガラク (2.2m) 【10:17】	0	23.8	30.0	6.6	0	0	-
	2	24.1	33.3	6.2	4	1	-
	5	24.1	33.7	6.1	0	0	-
	10	24.1	33.9	6.4	2	0	-
	底層 14.5	24.2	34.0	6.6	-	-	-
B 勢井 (2.4m) 【10:29】	0	23.7	29.0	6.8	0	0	-
	2	24.0	32.4	6.2	1	0	-
	5	24.0	33.6	6.0	0	0	-
	10	24.0	33.9	5.6	0	0	-
	底層 18	24.1	34.1	6.4	-	-	-
C 馬の背 (2.6m) 【10:36】	0	23.8	30.3	5.9	0	0	60
	2	23.9	32.1	5.7	0	0	0
	5	24.0	33.6	5.7	0	0	0
	10	24.0	33.9	5.9	2	0	0
	底層 21.5	24.1	34.1	6.6	-	-	-
D 大室戸 (2.5m) 【10:08】	0	23.8	30.3	6.2	0	0	-
	2	24.0	32.6	6.0	0	0	-
	5	24.1	33.6	6.1	0	0	-
	10	24.1	33.9	6.2	0	0	-
	底層 19.5	24.1	34.1	6.7	-	-	-
E 湾奥ブイ (2.9m) 【09:58】	0	23.6	26.5	7.2	0	0	0
	2	23.9	32.4	6.5	0	0	10
	5	24.0	33.6	6.2	1	0	0
	10	24.1	34.0	6.2	0	0	0
	底層 16.5	24.1	34.1	6.8	-	-	-

参考：有害プランクトンの種類と注意及び警戒基準

有害プランクトン	被害	注意基準 (※1)	警戒基準 (※2)	主な赤潮発生時期 ※3
				野見湾
ケラチウム属	魚類の餌食い悪化	100 cells/mL	—	—

※1 注意基準：餌食いの悪化、警戒基準に達する恐れのある密度

※2 警戒基準：魚類及び二枚貝のへい死並びに二枚貝の毒化が想定される密度

※3 あくまで目安なので、水産試験場・漁業指導所の広報や養殖魚の状態に応じて、慎重な養殖管理をお願いします。



- A: ガラク
- B: 勢井
- C: 馬の背
- D: 大室戸
- E: 湾奥ブイ

ケラチウム属
最大細胞密度



アカシオ・サングイネア
最大細胞密度



珪藻
最大細胞密度



凡例

プランクトンの細胞密度を示す円の大きさ
円のサイズが大きいくほど、プランクトンの数が多いので注意してください。



注意・警戒を示す円の色

黄・赤色の円が確認された場合は、魚介類に悪影響が生じる可能性がありますので、注意してください。
基準値は、「参考：有害プランクトンの種類と注意及び警戒基準」を参照ください。

注意基準の値以上



警戒基準の値以上

